

—沈黙のまま進行—

—慢性腎臓病—

町の保健師と赤旗日曜版から

先日、町の保健師から「今、なぜ糖尿病重症化予防か？」という話を聞く機会がありました。

今、透析療法となる原因で最も多いのが、糖尿病の合併症の一つである糖尿病性腎症。治療では、薬療法が中心ですが、生活習慣の改善が重要な位置を占めているそうです。

「塩分をとりすぎないこと」
「定期健診を受けること」

—保健師さん達の取り組み—

実際では、今の状態でいくとあと2年もすると、人工透析をすることになってしまう糖尿病患者の方に対し、毎月一回の訪問を続け、いろいろなアドバイス、指導を続けた結果、症状が回復し人工透析は10年後というデータに改善されたと報告されました。また、自治体を実施する「特定検診」には腎臓機能の低下や異常がわかる

「血清クレアチニン値」検査は含まれていませんが、皆野町はその検査を実施しています。

赤旗日曜版「健康らいい」でも—

保健師の話聞いたすぐ後、赤旗日曜版10月19日号（先週）の健康ら

いふでも取り上げられたのが「慢性腎臓病」でした。

読んだ方もいらつしやると思いますが、町の保健師さん達の取り組み「糖尿病重症化予防」が的を射ていることを感じました。

こうした取り組みで医療費の削減にもつながっていきます。

一緒に話を聞いた議員から「先日の保健師の話はよかった、日曜版に同じことが載っていたので切り取って張っておいた」とうれい報告もありました。

ぜひもう一度、日曜版を開いて、「慢性腎臓病」について読んでみては

いかがでしょうか。

（常山 知子）



安倍暴走政治を

止めさせよう！

10月19日、来春の統一地方選挙で共産党の前進を勝ち取ろうと、深谷市で演説会が開かれました。

消費税10%増税、社会保障の改悪、集団的自衛権容認、原発再稼働など国民との矛盾を広げる安倍暴走政権。各種の世論調査で国民の多数が安倍政権の主要政策に反対しています。弁士の塩川てつや衆議院議員は、「昨年の都議選、参議院選につづいて来春の統一地方選でも前進させて下さい。」

熊谷、深谷市、などでの予定候補者が紹介され、決意が表明されました。

（T）

議員のひとりごと

常山 知子

小学生の頃だったと思います。兄が父が家の裏に小さな小さな田んぼをつくり、井戸の水をひいて稲を育てました、その新米をかまどで炊き、釜からふきでる湯気。なんとも食欲をそそる、おいしい匂いを今だ忘れません。

「嫁にやるなら太田か蒔田」と言い伝えがあるくらい。この地域は水田が広がっておりお米がとれて、食べるのに困らないという意味だと聞いています。それを支えるお嫁さん達は大変だったと思います。

そんな太田田んぼの一面で親戚がお米をつくっています。今は大型機械で、稲刈りから脱穀まで一度にやっている所が多い中、刈った稲を天日干しにしてから脱穀する。大変ですがおいしいコメになります。米つくりで生計を立てているわけではありませんが、今年の米の暴落は大変な問題です。日本人の主食のコメを生産する農家を政府がしっかりと守っていかないと食料自給率はますます下がってしまいます。

まして、TPPが結ばれてしまったら、日本人の胃袋は外国産になってしまうのではと本当に危惧しています。